

講義名	教育課程論【教職に関する科目】		
科目区分	教職に関する科目		
担当教員	水田 聖一		
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 3時限	授業形態	
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

<b>主題と概要</b>			
<p>教職に関する科目（教職課程及び指導法に関する科目）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の意義及び編成の方法</li> <li>・各教科の指導法</li> <li>・特別活動の指導法</li> <li>・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）</li> </ul> <p>学校は、子どもに何を教え、何を学ばせるのか。この「何を」に当たる教育内容を、子どもの必要と社会的必要とに基づいて検討し、構造化し、評価するのが教育課程研究の基本課題です。そのような子どもの必要とは何か、社会的必要とは何かを誰が、どのようにして、何を基準として判断し、評価するかは、重要な教育問題であり、社会問題、政治問題でもあります。この講義では、そのような問題を解決するための思考力を身につけられるよう、歴史的観点など様々な視点から教育課程を考察します。</p>			

<b>到達目標</b>			
<p>教育課程の意義と歴史、教育課程編成の原理と方法、21世紀の学校と教育課程の改革について学ぶ。          教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）</p>			

<b>提出課題</b>			
<p>プレゼンテーション用パワーポイント、ノート提出・小レポート(感想・コメント)提出</p>			

<b>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</b>			
<p>プレゼンテーションの後、コメントと改善点を指導する。</p>			

<b>評価の基準</b>			
<p>定期試験・プレゼンテーション試験(60%)、発表・小レポート(40%)</p>			

<b>履修にあたっての注意・助言他</b>			
<p>毎回休まずに出席することが大切。欠席の多いものは成績も下がります。この授業では4回以上欠席者は、試験を受けることができません。          A以上の成績を多く取らないと、教育実習に行けません。          デキストを購入しないものは、授業に出ることを禁ず。</p>			

<b>教科書</b>				
よくわかる教育課程 第2版	田中耕治	ミネルヴァ書房	2600	9784623082698

<b>プリント資料及び参考文献</b>				
<p>高等学校学習指導要領・同解説          文部科学省ホームページ</p>				

<b>授業計画</b>				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.【教育課程の意義】 教育課程(カリキュラム)とは何か、教育課程の意義、学習指導要領</li> <li>2.【内容選択の基準】 何を重視するか(生活経験、社会の要求、科学、人間性)</li> <li>3.【教育課程編成原理】 経験主義と系統主義、スコープとシークエンス、分化と統合</li> <li>4.【発達と教育課程】 人間発達の理論、学習のレディネス、個に応じた指導</li> <li>5.【教科書】 教科書の在り方と活かし方、教科書検定制度</li> <li>6.【教育課程と教育環境】 学校建築、教室、学校図書館、教材と教具、学級編成</li> <li>7.【カリキュラム評価】 学力の評価、授業の評価、アカウンタビリティ</li> <li>8.【履修スタイル】 必修科目と選択科目、履修手技と修得主義、能力別グルーピング</li> <li>9.【教科課程】 諸教科のカリキュラムの特徴、教育内容の精選</li> <li>10.【教科外カリキュラム】 生徒指導、道徳の時間、総合的な学習の時間、特別活動</li> <li>11.【近年のカリキュラム改革の動向】 環境教育、国際理解、メディア・リテラシー、食育等</li> <li>12.【方法論】 「学び方」を学ぶ教育課程の編成と実践</li> <li>13.【教育課程の歴史】 我が国の教育課程の歴史</li> <li>14.【教育課程の歴史】 我が国の教育課程行政、学習指導要領の変遷</li> <li>15.【諸外国の教育課程】 アメリカのカリキュラム、イギリス、フランス、ドイツ等</li> </ol>				

<b>授業形態（アクティブ・ラーニング）</b>				
ア	PBL（課題解決型学習）			
イ	反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）			
ウ	ディスカッション、ディベート			
エ	グループワーク			
オ	プレゼンテーション			
カ	実習、フィールドワーク			

<b>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</b>				
<p>テキストに従って進むので、毎回予習・復習を行うこと。          毎回発表(パワーポイントによるプレゼンテーション)を課すので、内容をしっかりと調べてくること。          特に復習においては、人物名や事項についての発展的学習を行うこと。</p>				

<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b>				

<b>実務経験の有無及び活用</b>				

<b>備考</b>				
<p>教員の免許状取得のための必修科目</p>				